

平成 29 年度

地域政策科学研究科 (前期)

一般入試

専門科目

時間 180 分  
(午前 9:30~12:30)

---

注意事項

---

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は、この表紙を除いて 3 枚です。  
印刷不鮮明の箇所などがあれば、監督者に申し出て下さい。
3. 解答は、別紙の解答用紙に横書きで記入して下さい。
4. この問題冊子とは別に、解答用紙が 1 枚配布されていますが、そのすべての用紙の指定欄に科目名と受験番号を必ず記入して下さい。
5. 試験終了の合図とともに、ただちに、筆記用具を机の上に置いて下さい。
6. 解答用紙は持ち帰らないで下さい。

平成29年度(前期)

(一般入試)

地域史

I 以下の文章を読み、設問に答えなさい。

江戸幕府を倒した明治政府は、廃藩置県を断行するなど国内統一を進めるとともに、封建的身分制度を撤廃していった。まず、( ① )によって藩主と藩士の主従関係を解消し、公家及び藩主を( ② )、藩士や旧幕臣を士族とした。そして農・工・商にあたる人々を( ③ )とし、「えた」・「非人」など、被差別民に対する呼称も廃止した。

四民平等に続き、国民皆兵を目指す徴兵令が公布され、秩禄も廃止に向けて動き始めた。こうした a 武士の特権の廃止は、特に戊辰戦争で新政府軍に加わって戦った士族たちの間に不満を醸成することにもなった。

1873(明治6)年、( ④ )論争に敗れた西郷隆盛・板垣退助・江藤新平等は参議の職を辞した。板垣等は( ⑤ )を提出し、政府の「有司専制」を批判して自由民権運動の口火を切った。江藤は郷里の佐賀に戻り不平士族とともに佐賀の乱を起こした。この他、( ⑥ )、( ⑦ )など、不平士族の反乱が続いた。さらに1877(明治10)年2月には、西郷隆盛を擁して不平士族が立ち上がり( ⑧ )が発生した。この内乱は9月に鎮圧され、以後、不平士族による武力蜂起はほぼなくなることになるが、この内乱の戦費をまかなうために発行した不換紙幣がインフレーションを引き起こすこととなり、 b 政府の財政は転換していくことになる。

問1 ①～⑧の空欄を埋めなさい。

問2 下線部 a について、明治政府による一連の近代化政策で武士が失った特権とは何か、説明しなさい。

問3 下線部 b について、この財政政策の転換を主導した人物は誰か、答えなさい。

問4 下線部 b について、この財政政策の転換によって、地域社会にはどのような影響が及んだか、説明しなさい。

II 以下の文章を読み、設問に答えなさい。

1931(昭和6)年の満州事変以降、軍部、特に陸軍の政治的発言力が増していった。1932(昭和7)年には( ① )が発生して犬養毅首相が暗殺され、a 政党内閣の時代が終わった。

1930年代の半ばになると、陸軍内部には( ② )と( ③ )が形成され、派閥的対立が激しくなっていた。( ② )の一部の青年将校たちは、1936(昭和11)年に二・二六事件を起こし、斉藤実内大臣・( ④ )歳相らを殺害、4日間にわたって東京の永田町一帯を占拠した。政府はb 戒厳令を出して反乱軍を鎮圧したが、( ② )に代わって( ③ )が陸軍内の主導権を確立し、陸軍の政治的発言力はいっそう強まった。

二・二六事件後に成立した広田弘毅内閣は、1年も持たずに退陣し、37年1月には陸軍穏健派の( ⑤ )が組閣の大命を受けた。しかし陸軍がこれに反発して陸軍大臣を出さなかったため組閣に至らず、代わって林銑十郎が内閣を組織することとなった。

その林内閣も四ヶ月で倒れ、次に首相になったのが( ⑥ )である。若い革新政治家として、陸軍を始め国民の大きな期待を集めていた( ⑥ )が内閣を組織した直後の1937(昭和12)年7月には、北京郊外で日中両国軍が衝突し( ⑦ )が発生した。当初、政府は不拡大方針を示したが、軍部の圧力に屈して戦線拡大を許すこととなり、日中戦争へと発展していった。

問1 ①～⑦の空欄を埋めなさい。

問2 下線部aについて、1924(大正13)年の第1次加藤高明内閣から1932(昭和7)年までの8年間、二大政党の総裁が交代で内閣を組織した。この政党内閣の時代が終わる1932(昭和7)年における二大政党名を、それぞれ答えなさい。

問3 下線部bについて、日本において緊急勅令によって戒厳令が出されたのは、1905(明治38)年と1923(大正12)年、ならびに1936(昭和11)年の二・二六事件の3回である。戒厳令が出された1905年と1923年の出来事を、それぞれ答えなさい。

Ⅲ 以下に掲げた史料は、大日本帝国憲法発布の翌日に、黒田清隆首相が府県知事に対して行った演説である。史料を読んで設問に答えなさい。

帝国議会ハ明年ヲ以テ開設セラルヘシ、凡ソ我臣民タル者誰カ公権ヲ優重セラレ公議ヲ伸暢セラル、聖上無疆ノ恩徳ヲ欽仰セサランヤ。議会開設ノ時ニ至リ議員ノ選ニ当ル者ハ、各忠実ノ誠ヲ尽シテ国事ニ参預シ、上下和融ノ美ヲ成シ、以テ滋仁ノ旨ニ奉答センコト今ヨリ切ニ望ム所ナリ。若シ奔競浮躁徒ニ紛擾ヲ事トシ議会ノ体面ヲ損シ、自ラ其信用ヲ公衆ニ失フカ如キコトアラハ、遂ニ立憲ノ盛意ヲ曠クスルニ至ラン。地方牧民ノ責ニ当ル各員意ヲ加ヘテ誘導啓発アラントコトヲ欲スルナリ。憲法ハ敢テ臣民ノ一辞ヲ容ル、所ニ非ルハ勿論ナリ。唯タ施政上ノ意見ハ人々其所説ヲ異ニシ、其合同スル者相投シテ團結ヲナシ所謂政党ナル者ノ社会ニ存立スルハ亦情勢ノ免レサル所ナリ。然レトモ政府ハ常ニ一定ノ方向ヲ取り、超然トシテ政党ノ外ニ立チ至公至正ノ道ニ居ラサル可ラス、各員宜ク意ヲ此ニ留メ、不偏不党ノ心ヲ以テ人民ニ臨ミ、撫馭宜キヲ得、以テ国家隆盛ノ治ヲ助ケンコトヲ勉ムヘキナリ。

歴史学研究会編『日本史史料』〔4〕近代、岩波書店、1997年、211頁より。

- 問1 演説の中で、議員に当選した者はどのような役割を果たすべきだと述べているのか、説明しなさい。
- 問2 演説の中で、政府はどのように施政を執り行うべきだと述べているのか、説明しなさい。
- 問3 この演説で黒田首相が表明した政党に対する態度を、歴史用語で何というか、答えなさい。